

令和４～６年度「福岡市産学連携交流センター」指定管理者業務 総合評価表

基本情報			
施設名	福岡市産学連携交流センター	指定管理者	西鉄ビルマネージメント（株）
指定期間	令和３年４月１日から令和８年３月31日	所管課	経済観光文化局創業・大学連携課

評価基準	
評価基準	配点
極めて良好な施設運営状況であった。（協定等の業務内容をはるかに上回る運営状況）	5
良好な施設運営状況であった。（協定等の業務内容を上回る運営状況）	4
通常の施設の運営状況であった。（協定等の業務内容通りの運営状況）	3
やや課題のある施設の運営状況であった。（協定等の業務内容を下回る運営状況）	2
改善を要する、または不適切な施設の運営状況であった。（協定等の業務内容をはるかに下回る運営状況）	1

その他施設の管理運営にあたり工夫し、成果をあげた取組み等（加点事項）
・いとLab+開業に伴う、駐車場や周辺道路利用者増加に対処するため事故防止策を講じた ・台風等の災害対応 ・地域住民向けのイベント対応 ・福岡市より依頼のあったワークブースの設置 ・大雨や台風時に、夜間待機や早期の現場確認を実施するなど、施設の安全な運営に注力していた。

指定管理業務における不適切な行為（減点事項）
特になし

★市による総合評価		A:70点以上 B:65～69点 C:60～64点 D:55～59点 E:55点以下
C	【評価できる点】 ・光熱費の上昇に対して、未使用時に消灯や空調機の運転台数の削減等の適切な対策を講じていた。 ・施設管理に関しては、イベント開催時の増員や災害時の夜間待機等、柔軟な対応がされていた。 ・駐車場や周辺道路利用者増加に対処する為、駐車場の一方通行化やミラーの設置等の対策を講じた。	
62	【課題、改善が必要な点】 ・入居者の情報やニーズを適切に収集・把握し、有識者とのマッチング等を通じて課題解決に資するような役割を期待したい。 ・FiaSのブランディング向上のため、より積極的な情報発信を期待したい。	

評価項目		R 4 評点	R 5 評点	R 6 評点	3ヶ年 合計	評価のポイント
Ⅰ 施設の管理運営に関する事項		34	35	36	105	
1	実施体制(配置する人材、組織体制、研修体制等)	3	4	4	11	基本協定書とおりの体制で運営し、適正に対応した。また、台風等の災害時には臨時で従業員を招集するなどの対応を行った。
2	清掃・衛生管理	4	4	3	11	専門知識の豊富な専門清掃員が主に清掃を行い、施設美観の維持を図った。
3	保安警備、危機管理	4	4	4	12	現地スタッフが施設を2回/日以上で巡回し、不具合等の早期発見を図った。
4	施設及び附属設備の保守管理、点検、維持補修	4	4	4	12	管理責任者が点検時に不具合箇所等発見した場合、是正に向けた対応を行った。
5	化学系施設の管理	3	3	3	9	施設利用マニュアルを基に届出・廃棄等の徹底を行った。
6	分析機器室の管理運営	3	4	4	11	分析機器の取り扱いに精通している（公財）九州先端科学技術研究所へ再委託を行い、専門性を活かしたサービスの提供を行った。
7	適切な事務手続（使用料等の徴収、使用許可等）	3	3	3	9	会議室等の使用料は速やかに福岡市へ納入した。
8	適切な経理事務(各種帳簿や現金取扱い等)	3	3	3	9	研究室、駐車場、交流ホール等の利用者より使用料を徴収し、福岡市へ納入した。
9	日常業務・定期業務の報告、是正対応	3	3	4	10	事件・事故・トラブル発生の都度、速やかに福岡市へ書面及び口頭で報告した。R6年度のフェンス事故時の対応は迅速であった。
10	入居者等サービス向上への取組み	4	3	4	11	現地スタッフが施設を2回/日の周期で巡回し、汚損箇所がある場合は適切に対応した。周辺交通量増加に備え、駐車場の一方通行化を行った。
Ⅱ 産学連携交流の推進に関する事項		16	20	15	51	
1	入居者の情報収集及び的確な情報発信					
①	適切・的確な情報収集	2	2	2	6	R 4・5年度は管理責任者が入居者と対面で情報収集を行った。R 6年度は未実施。
②	効果的な広報の実施	2	2	3	7	SNS（Facebook）を利用し入居者の実績や主催イベントを発信した。
2	産学連携交流の推進に寄与する催事の開催					毎年度、地域住民向けの夏休み体験実験を開催。 R4年度：公開形式の交流会であるFiaS Mouthly Caf� を4回開催(オンライン)。 FiaS Acceleration Program を10回開催。 R5年度：FiaS Acceleration Programを7回開催。 R6年度は 未実施
①	イベント等の開催頻度	3	3	2	8	・R4・5年度はコーディネーターと密に連携し、入居者のニーズに合致した内容を見極めて改善していく必要あった。 ・R6年度は入居者により効果的な支援を行う為、支援内容の見直しを図ったが、積極的な提案が見られなかった。
②	効果的なイベント等の実施	2	2	2	6	
3	入居者の事業支援					
①	入居者の事業支援の頻度	2	4	2	8	
②	入居者の効果的な事業支援の実施	2	3	2	7	
4	効果的な産学連携交流の推進に関する理念・取組み	3	4	2	9	
Ⅲ 経済性・効率性に関する事項		7	7	7	21	
1	収支の実績	3	3	3	9	再委託業務に関して、2社以上の相見積を行い、適正な価格にて業務を執行した。
2	経費の縮減	4	4	4	12	交流ホール等の未使用時に消灯や空調機の運転台数の削減、設定温度の見直し等を行い、経費削減に努めた。
Ⅳ センター運営の総合的な評価		3	3	3	9	
1	センターの設置主旨に沿った効果的な運営	3	3	3	9	設置主旨に沿り、また基本協定書等を遵守した管理運営を行った。
【合計】		60	65	61	186	
総合評価					186 ÷ 3ヶ年 = 62	